

# 認識の違いが多発！ 経験の違いは否めず！ 会社は現場の声をもっと理解せよ！

## 「申12号 CASTに関する申し入れ」について業務委員会で議論

私たちはCASTの問題に関して会社や運輸局に対して様々な問題を提起してきています。しかし、何ら問題は改善されないまま使用が拡大され、ついには基本動作までもが変更されようとしています。

そもそも、CASTは支援装置です。表示も万全ではありません。GPS不具合も未だに発生しています。100%信用がおけない装置を基本動作に組み込む訳は、使えないCASTを導入した責任逃れなのではないでしょうか。

名古屋地本は2月5日業務委員会を開催して会社と議論を行いました。

### 記

1. CASTが有効活用されていない理由をどのように分析しているのか明らかにすること。  
【回答】運転士様タブレットはさらなる安全性の向上と輸送障害への対応の迅速化を目的として導入した。導入にあたっては実際に使用する運転士や指令員の意見をヒアリングする機会を複数回にわたってもうけるなどして高い操作性を実現しており、さらなる安全性の向上・情報伝達の迅速化の実現に強力なツールになると考えている。
2. この間、設置位置の関係で前方の視界不良を問題提起してきたが、何ら改善されないのは何故か。理由を明らかにし、改善すること  
【回答】前方視界を阻害せず、かつ、時刻表付近の箇所を検討した結果、現在の箇所に設置している。
3. 簡易通告は運転中でも操作できるようになっているが、前方注視が阻害される事に変

わりは無い。具体的に、何秒間なら前方注視せずCASTを操作して良いのか見解を示すこと。

【回答】前方注視が阻害される事は無い。引き続き前方注視の安全性についても教育を実施していく。

4. 停車する両数標と編成両数は異なっていることがあるが、喚呼をすることによって混同するのではないか。また、視線をそらし、速度感や減速感、前方注視の妨げとなるのでブレーキ取扱中は、ブレーキ操作に集中するべきと考える。雑念の基となる喚呼は止めること。

【回答】その様な考えはない。

5. CASTによる徐行確認に何秒かかると見込んでいるのか明らかにすること。

【回答】明らかにする考えはない。

6. 乗務終了から発車準備が整うまで何秒を見込んでいるのか明らかにすること。

【回答】明らかにする考えはない。

7. 基本動作に要する見込みの時間を確保した折り返し、停車時分とすること。

【回答】必要な時間は確保している。

8. GPS等の条件で正しい情報が入らないことが考えられる。誤りを認めた場合は消去して良いとしているが、間違い探しである。つまり、誤りに気づくということは運転士は十分な情報を得ているのであってCASTは必要ない。CASTの誤りにより事故を誘発してはならない。よって、100%信用できるまで基本動作の変更は延期すること。

【回答】その様な考えはない。

### 【主な議論】

【組合】まず、申し入れ以後に組合員から聞いたことを伝えたい。ログオフを誤って触ってしまいログオフになることがある。ログオフボタンを触ってしまった後に「ログオフしますか」の表示が出るようにしてほしい。時計のデジタル化でも議論したが、キャストはGPSの時計が組み込まれている。運転画面で時計を表示することができないか。

【会社】検討する。

【組合】スリープボタンを押した後にトラブルが多い、改善すること。

【会社】承知している。改善もしている。

【組合】相変わらずGPSがつながらない箇所がある。原因は何か。

【会社】箇所により電波が弱いところはある。

【組合】スマホが急に導入されることになった。スマホとタブレットは同じような機能を持つ端末である。もっと精査できないか。たとえば運転台に出すのはスマホで、必要なときに鞆からタブレットを出すという風にできないものか。

【会社】タブレットとスマホの導入が別々の計画であったためこの様な結果になった。

### 会社は基本動作をどのように考えているのか

- 【組合】1の回答ではのようになりたいという回答であり申し入れとは食い違っていると考え。
- 【会社】有効に活用されると考えている。もっと有効に活用してほしいという認識の回答である。目的に沿って使えばもっと有効に活用できるものだ。
- 【組合】基本動作が変更され、キャストを喚呼するよう変わった。これが有効活用か。
- 【会社】運転士は定められた確認をしつつ、キャストを利用すれば有効である。
- 【組合】キャストが正常に動いていない時には基本動作を変えなければならない。このようなものは基本動作とは言わない。さらにはキャストが100%正しく表示されていない。間違い探しは良くない。100%信用できない。
- 【会社】支援するためのものである。
- 【組合】キャストを活用するために基本動作が変わったと考えられるのではないか。基本動作はその様なものではない。先人が長い年月をかけて作り上げたものだ。今停止位置不良が多いからそれを喚呼に入れればいいというものではない。何が大切かが分からなくなってしまう。実際に現場では今回の変更で信号喚呼が軽視されているという意見がある。
- 【会社】支援するためのものである。
- 【組合】これまでワンマン列車では自車・全車を隠せとさんざん言われってきたものが、今回の基本動作で隠さないようにしてきた。自車・全車で誤ってもいいのか。一貫性がない。これが基本動作か。会社は、何でも確認、声を出せば良いと考えている。確認事項が増えれば一つ一つに対する意識は薄れてしまう。また確認動作が目的化されてしまう。
- 【会社】有効に使ってもらいたい。
- 【組合】キャスト自体が誤った情報を出してる時もある。会社は基本動作をどう考えているのかわからない。
- 【会社】組合とは認識が違う。
- 【組合】これは認識の違いではない。経験の違いである。運転をしたことがあるのか。経験したものにしか分からないことだ。
- 【会社】会社は今後どういう方向に持っていこうとするのかを考えている。
- 【組合】危ないと考えるから意見を出しているのだ。なぜ分からないのか。
- 【会社】有効に使ってもらいたい。
- 【組合】高山線では場内信号機の喚呼後踏切もある。なぜここでキャストの確認をする必要があるのか。別の基本動作をすることにより全てが薄まっていく。意識の集中をするための基本動作にその時必要のない動作をすることにより、確認が疎かになっていくことが分からないのか。前駅で次駅の両数表を確認しても忘れてしまう。発車、その後には運転時分、ブレーキポイント、信号確認、前方確認等々優先してやらなければならないことが多くある。会社は基本動作を分かっていない。
- 【会社】意見を聞いて精査していく。

以上